

“Heart to Heart”

心から心へ わかちあう あたたかさ

第17巻 第2号 (No.51)

発行日 2022年12月1日

目次:

驚きは新たな
視点のはじまり 1

療育プログラムのようす 2・3

コラム：個性と障害 4

ホームカミングデー 4

教育センターからのご案内 4

驚きは新たな視点のはじまり

新しい幕開けと感じた「令和」となっ
てから、世の中の状況が続いていま
す。しかし、教育センター的には子
どもたちの笑顔が増えたり、保護者
間の交流が増えたりとますます見通
しが明るくなってきた今日この頃で
す。このまま進んでくれると嬉しい
限りです。

日々、子どもたちと接している先生
方は、想定外の出来事に出会うこと
がよくあります。子ども一人ひとりが
それぞれの価値観をもって生きていま
すので、その子どもと関わらないと
わからなかったことがたくさんあるの
です。また、ちょっとした出来事に驚
きとともに新たな発見があり、その
ことで教師一人ひとりが自分の経験
値を豊かにして新たな視点を考え、
気持ちを新たに子どもたちと向かい
合うことができています。

今まで知らなかったことに気づけた
ときの驚きはうれしさの裏返しです。
このうれしさをもとにして指導の幅
は着実に広がり、子どもたちに還元
していけます。まさに子どもたちは、
私たちにとって良き教師なのです。

驚きが気づきとなって、新たな視点
を考えたいことができます。今まで知
らなかったことに気づけたときのび
っくりと嬉しさはとても大きいもの
があります。だからこんなことがあ
った、驚いた、そこからこんなこと
が気づけたという先生方の体験を
教育の中に取り込んでいきます。そ
れとともに、驚きから気づきにつ
ながっていったことを他の先生方と
共有することで、経験値がさらに
広がっていきます。それをまた子
どもたちに返していくという好循環
が教育センターの中で繰り返し繰り返

武蔵野東教育センター所長 計野浩一郎

れることで教育の質が確実に向上して
きていると感じています。

外部の専門家の方々からも「子ども
たちも先生も明るく、表情が豊かだ
ですね。」や「突飛な行動があっても、
他の子どもたちも先生方も落ち着い
て対処できていますね。」などの感
想をいただくことが多々あります。

一人の先生が経験した嬉しさを共有
して、それぞれの先生方が自分の学
びとして受け止めて切磋琢磨してい
ける環境が教育センターにはありま
す。そのような積み重ねがそれぞれの
プログラムの中に着実に生きていま
す。そして、そのことが指導や教育
内容の厚みにつながってきているの
だと、保護者の方々も実感していただ
けているのではないかと思います。驚
き、感動できる感性が先生方に一人
ひとりに培われているから、子ども
たちの心もたとえ小さな出来事や驚
きであっても大きく動き、学びへと
つながっていくのだと思っています。
ご家庭においても驚きやびっくりに
戸惑うのではなく、学びにかえる
チャンスだという視点をもって、家
庭教育に生かしていかしてください。

まもなく冬休みを向かえます。休み
中の過ごし方についてご家族で話し
合い有意義な休みをお過ごしください。
また年末年始は、日本の文化に親し
む良い機会です。ご家族でお住まい
の地域の文化や旅行先での地域行事
について調べてまとめてみるのも
よい経験になるのではないと思いま
す。ゆとりある生活を心掛け、休
み明けの元気な笑顔に会えること
を楽しみにしています。





療育プログラムのようす 【各教室・言語プログラム】

リズム教室 ジョイントマットを使いステップを練習しています。初めは足の動きがぎこちなかった子ども達ですが、視覚的にわかりやすいように赤と青のマットを使い、「あーか、あーお」と声に出し、その色につま先やかかとをタッチすることで、クロスステップもできるようになりました。現在は、ステップに合わせて手拍子や両手を上下に動かす複雑な動きにも挑戦しています。



みんなでリズムに合わせて
サイドステップ

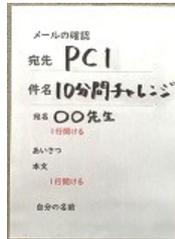
(高橋)

幼児絵画造形教室 絵の具の混色を楽しみました。まずは色の足し算からです。「赤と青を重ねると〜！」と2色のセロファンをそーっと重ねていくと、むらさき色に変わります。次に青と黄色のセロファンを同じように重ねると、「あっ、緑になった！」の声。次々に作り出される色に驚く子ども達でした。最後は色の三原色である赤、青、黄色を混ぜ合わせると黒っぽい色になりました。その色を使って恐竜に着色しました。(本田)



全部混ぜると
黒っぽくなるんだよ

コンピュータ教室 メール練習をしています。決められたテーマに沿って件名と本文を入力し、担当者宛てに実際にメールを送信します。本文の1行目には相手の名前を入れること、名前と本文の間は1行空けること、など様々なマナーがあり難しいですが、少しずつ覚えているところです。時には担当者が返信をすることもあり、それを楽しみに頑張っている子もいます。



メールの送り方

(本村)

体育教室 5・6年生以上の体育教室では高鉄棒を使いぶら下がりを行っています。体を伸ばすことで大きな筋肉をほぐすことや腹筋や背筋に力を入れて姿勢を維持することで体幹を強化することができます。またしっかりと握ることで握力向上も期待できます。持続してぶら下がるためには、左右均等に力を入れて握ることが大切です。寒い季節になり体が縮こまりがちな今、みなさんも試してみてください。(菊池)



しっかり握って！

SST教室 3.4年生は発表や好き嫌いゲームなど自分の意見を人に伝える活動に力を入れています。例えば、「好き嫌いゲーム」では2つのものを比べてどちらが好きかとその理由を話します。「～の場合は好きだけれど、そうじゃないときは…」などと細かい条件をつけて意見を言えたり、友だちに同調した意見が言えたりなど、いろいろな言い方ができるようになりました。(宮下)



どちらが好きですか？

ダンス教室 布や花などの手具を持って踊る練習を行っています。今は扇子を使って、曲に合わせて担当者と同じように踊ったり、自由に踊ったりしています。日常生活では使う機会が少ない扇子ですが、練習を重ねるうちに扇子を開く動作や手首を使ってひらひらと返しながら踊ることもできるようになってきました。「しなやかさ」を表現することを目標に、今後も練習を重ねていきます。(益田)



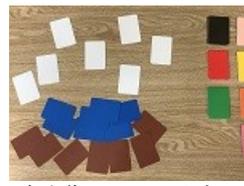
扇子を持ってポーズ！

音楽教室 スウィングジャズの代表曲「Sing Sing Sing」の打楽器演奏を通してバックビート(裏打ち)に挑戦中です。日本では表拍(1・3拍目)にアクセントを置くダウンビートでリズムを捉える文化的背景がありますが、裏拍(2・4拍目)にアクセントを置くバックビートでリズムを捉えることは、近代のポピュラー音楽を演奏するうえで欠かせないテクニックとなります。(平瀬戸)



バックビートに挑戦中

言語プログラム 10色のカードを使って、提示されたお題を表現するカードゲームをしています。「白いのは湯気、茶色は岩です」とヒントを言ったり、使いたい色が足りないときには何と言ったらよいのかなどのやりとりを学びながら取り組んでいます。対面に座っている相手からどう見えるかも意識して作っています。正解したときの笑顔から伝わる嬉しさを感じていることがわかります。(高槻)



何を作っているのかな？



【スクールプログラム・ラーニングプログラムの様子】

幼児 クリスマスに向けた制作に取り組んでいます。年長児はリースを作りました。折り紙にのりをたっぷり塗ってドーナツ型の土台に貼った後、飾りにボンドをつけて貼り付けます。手首や指先を使った細かい動きですが、何度も繰り返す中でコツをつかみ、「きらきはここに貼る！」などと楽しみながら思い思いの作品を仕上げました。(齋藤)



夢中でボンドぬり

1年生 体育でタイヤを使った活動に取り組んでいます。両手で胸の高さまで持ち上げて10秒間保持したり、タイヤが倒れないように前後に転がしたりしながら、体幹トレーニングや、上肢・下肢の協調運動のトレーニングをしています。だんだんと寒くなってきましたが、この冬もたくさん体を動かして、元気に乗り越えていきたいです。(本村)



力持ちはだれた？

2年生 音楽では後期に入って「ハンドサイン」を行っています。音階の高低に合わせたサインを模倣することからはじめ、今では音階に合わせて動きを作ることができるようになってきました。9月には「虫のこえ」、今は「こぎつね」に挑戦しています。耳から入るメロディーを手や体で表現し、子どもたちに一体感が生まれる時間になっています。(壹岐)



肩に手をあてて「そ」!



切り絵「ハロウィン」

3年生 図工で、折り紙、切り絵、模写、粘土などを使った様々な作品づくりに取り組んでいます。作品が完成するごとに、「先生、持って帰っていい?」「お部屋に飾るんだ」などできあがった作品を家で飾ってさらに季節などを味わって楽しんでいるようです。一人ひとりのスキルの向上、季節感を味わうことなどを大切に今後も取り組んでいきます。(宮下)



何と言っているのでしょうか?

4年生 国語の授業で、絵を見て吹き出しに入る台詞を考えるという課題に取り組んでいます。文章表現のトレーニングとしての側面もありますが、他者の立場に立って考える、正しい言葉遣いを意識するなど、ソーシャルスキルにも通じる学習となっています。みんなで想像を膨らませながら、表現豊かな台詞をたくさん考えることができました。(柳澤)



タイピングソフトを使って

5年生 後期から「コンピュータ」の学習を取り入れています。時間的には20分から30分程度ですが、毎回学習時間を設けています。ほとんどの児童がタイピングソフトを利用し、ゲーム感覚でローマ字入力ができるようになってきました。また、ホームポジションと指の動かし方を覚えるために、教育センターで考えたオリジナル手袋を使っています。(藤本)



リズムよくドリブル

6年生 体育の時間にバスケットボールのドリブル練習に取り組みました。今までの積み重ねもあり、ボールの操作が上手にできており、活発に動くことができました。一定のペースでリズムよくコーンの周りをドリブルしながら進む練習もしました。この調子でさらなるレベルアップを目指して、パス練習などにも挑戦していきます。(芳ヶ迫)



ストローとモールで立体を作る

中学生 数学の時間にストローとモールを使って、三角柱と三角錐を作りました。立体図形の特徴は平面図形とは異なりプリント学習だけではイメージすることが難しい様子がありましたが、辺(ストロー)と頂点(モール)の位置を考えながら実際に組み立ててみることで、三角柱と三角錐の違いがしっかりと理解できたように感じられました。(大澤)

ラーニングプログラム 教科学習だけでなく、カラーシールから発した線を目でたどり終点に同じ色のシールを貼ることや、手本を見ながら絵を模写する課題など、目の動きを鍛える課題を個々に合わせて行っています。目の運動も体育の動作のように繰り返すことで成果が期待できます。楽しみながら練習を続けられるよう、工夫していきます。

(玉木)



目の動きを鍛える課題



コラム 教えてもらったこと (2)

個性と障碍

明地 洋典 (京都大学教育学研究科准教授)

前回、「夏の実験」について書きました。実験に参加してくれる子たち(と言っても、成人されている方もいます)はそれぞれ個性的です。僕が研究を続ける決断をした理由の1つには、そんな個性豊かな皆とまだ関わっていたいという、ある意味で自分本位な思いがありました。

個性は、その人らしさと言い換えられるかもしれません。その人固有で絶対的なものであるように思えますが、一方で、差異から生じる相対的なものでもあります。ちょんまげは令和に生きる日本人の目には個性的に映るかもしれませんが、江戸時代ではそうではなかったでしょう(個性的な結い方はあったかもしれません)。

自閉症の診断を受けている方々と会うと、これだけ個性豊かな方々が1つのまとまりとして記述

されてしまってよいのだろうか思うときがあります。自閉症は症候群です。症候群とは、機序は不明だけれども、同じような症候が多くの人に見られる場合に使われる言葉です。自閉症であれば、「著しい興味の限局」「特異な社会的コミュニケーション」などの特徴が発達早期から見られることなどをもとに1つのまとまりとして記述されます。

「障碍も個性」という言葉があります。しかし、少なくとも僕は診断的特徴そのものを個性と感じたことはありません。たとえば、こだわりや選好も、その在り方は一人一人異なります。電車好きの子は多いですが、車両編成、モーター音、路線図…路線の中でもこの路線…など様々です。

障碍は、症候群やdisorderの意味では、共通項として捉えら

れるものです。その意味で「障碍も個性」という言葉は、根本的に矛盾した表現とも言えます。この言葉を用いるのは、社会ではまだ障碍に負の印象や見方があり、それを変えたいからかもしれません。一方で、社会が目指すべきなのは、障碍の有無や程度に関わらず、それぞれ個性的である一人一人が尊重されることであるはずで



こういった考えや視点も、一人一人と関わらせてもらった経験から得たこと、教えてもらったことです。「多様性」や「障碍も個性」などという言葉を持ち出さずとも、一人一人が尊重される社会になるように、自分なりにできることをしていきたいと思います。

このコラムは4回シリーズでお届けしています。

ホームカミングデー2022
今年は対面で実施!

11月23日(勤労感謝の日)にホームカミングデーを3年ぶりに対面で開催しました。懐かしい場所での再会を喜び合い、それぞれの近況報告をしました。その後は、体を動かすゲームやカラオケ大会と大いに盛り上がり、楽しい時間はあっという間に過ぎていきました。名残は尽きない様子でしたが、来年の再会を楽しみにして閉会となりました。



武蔵野東教育センター

〒180-0012
武蔵野市緑町2-1-10
電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595
Email: education-center@musashino-higashi.org
URL: http://www.musashino-higashi.org



2023年度療育プログラム申し込み

2023年度療育プログラムの一次募集を行っています。受講希望の方は申込用紙またはウェブサイトのフォームで2022年12月7日(水)までにお申し込みください。ご相談や見学も承っておりますので、お気軽にご連絡ください。